

おわりに

—開発技法の完成に向けて—

本研究では、精神障害者や高次脳機能障害を有する者に対する評価技法の開発を目的として、職業能力を評価するだけでなく、作業を行う上で必要となるスキルや職務遂行を可能とする環境（補完手段を含む）を明らかにするため、事務作業やOA作業、実務作業からなる作業評価課題等の開発を行っている。また、高次脳機能障害者等への作業評価課題の試行や情報の整理方法の獲得を目的としたメモリーノート訓練等を試行し、作業評価課題を遂行する際や補完手段を学習・活用する際の指導・支援の方法等についても研究を重ねている。

一方、職業リハビリテーションの現場では、遂行機能障害を有する者をはじめとして、神経心理学的検査等では軽度の障害ではあるものの、職場では様々な問題が生じるケースも現れている。

このようなことから、本研究では、「職場適応促進のためのトータルパッケージ（以下、トータルパッケージという）」として、これまで開発した作業評価課題やメモリーノート訓練、ストレス・疲労アセスメントシート等を総合的に使用方法を検討し、開発技法として完成させたいと考えている。

1. トータルパッケージの概要

トータルパッケージの流れを図1に示した。

トータルパッケージは、職業リハビリテーション・サービスを実施する際に必要となる、作業遂行力の向上や対処行動・補完手段等の獲得を目指して、障害状況に応じたセルフマネジメントの構築の視点に立って、評価や指導・支援等を行うよう構成されている。

トータルパッケージでは、まず、対象者の高次脳機能障害等の障害状況に関する情報や障害理解・障害受容の状況等を把握すると共に、職場や作業を行う中で生じがちなストレスや疲労の現れ方等についての情報を収集することから始まる。これらの情報を「M-ストレス・疲労アセスメントシート（以下、MSFASという）」に集約した上で、スケジューリング・スキルの獲得が職業リハビリテーション・サービスの中で必要とされるかどうかを判断する。次に、スケジューリング・スキルの獲得が必要な場合には、メモリーノート訓練を実施する。

さらに、作業評価課題（簡易版）により各種作業課題を体験させ、作業における障害の現れや作業に対する個々人の実行可能性等について把握する。その後、本人に適切と考えられる作業課題を選定し、個々の作業課題における作業能力の向上や作業遂行に必要な環境設定を特定できるよう指導・支援を行う。段階的な指導・支援により作業をスムーズに遂行できた段階で、複数の作業を自分でマネジメントできるよう支援を行う。

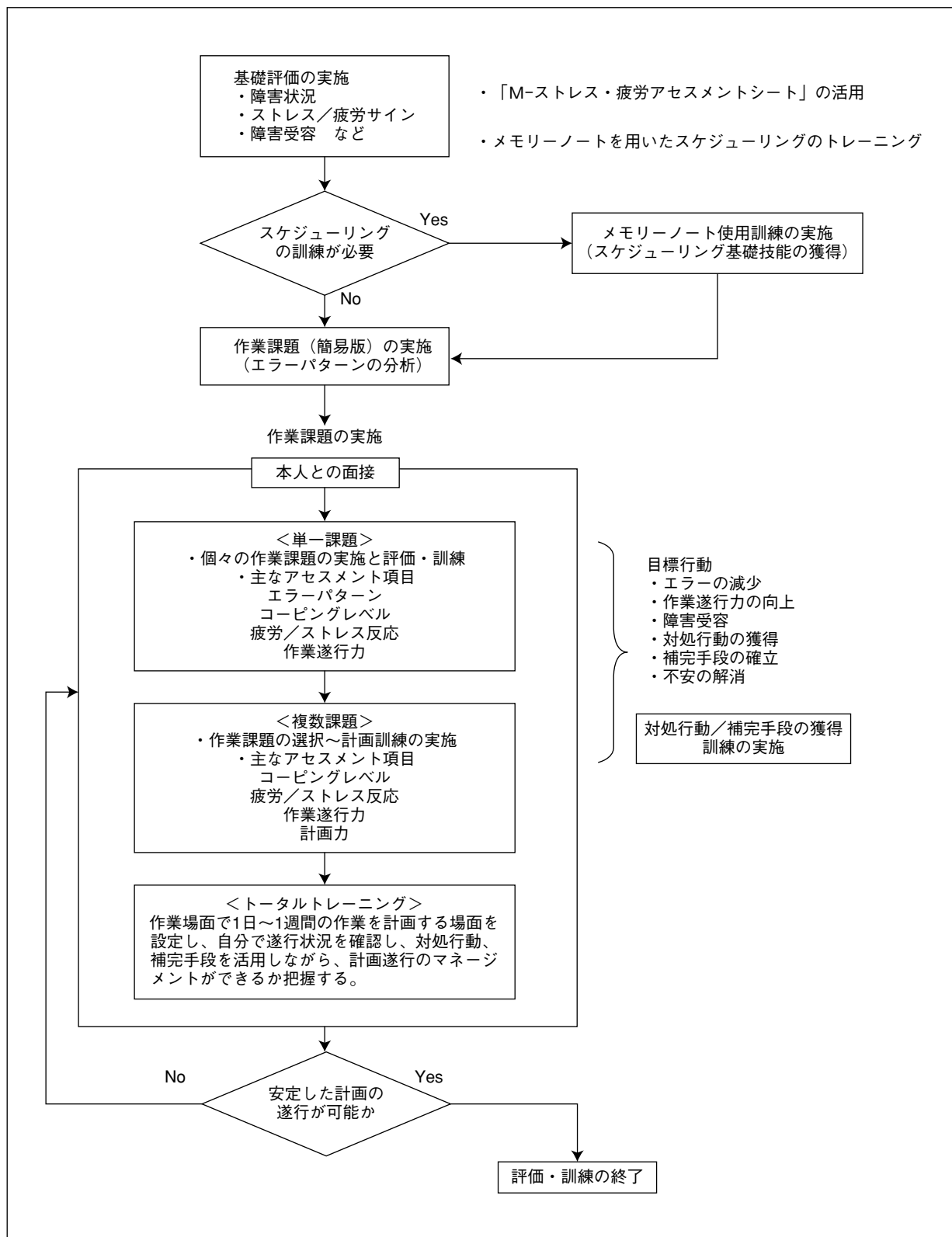


図1 評価課題を用いた職場適応のためのトータルパッケージの流れ
～対処行動/補完手段/作業遂行力の獲得と向上を目指して～

2. トータルパッケージの実施事例

(1) 対象者

表1 作業課題等施行状況一覧表

*表内の○は各レベルの終了を、△は訓練途上であることを示す

個人属性				WC ST	メモリー ノート		事務作業															O A作業															実務作業																									
							数値 チェック					物 品 請 求 書					作 業 日 報 集					数値入力					文章入力					コ ピ ー & ペ ー ス ト					フ ァ イ ル 管 理					検 索 修 正					ビ ッ キ ン グ															
事例名	年齢	性別	障害名		参 照	構 成	記 入	L	1	2	3	4	5	6	L	1	2	3	4	5	L	1	2	3	4	5	L	1	2	3	4	5	L	1	2	3	4	5	L	1	2	3	4	5	L	1	2	3	4	5	L	1	2	3	4	5						
A	23	F	TBI	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B	18	F	脳腫瘍	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
C	20	M	TBI	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						

表1に障害者職業総合センターで試行したトータルパッケージの実施対象者の概要を示した。

①Aさん（23歳、女性）：交通事故により受傷。記憶力の低下や失名詞失語、感情の起伏の激しさが指摘されている。記憶障害はあることは認識しているが、メモリーノート使用等の補完手段は確立していない。

作業課題等を行う中で、新規作業場面での口頭だけで指示された場合や作業結果のフィードバックがない場合等に、表情の変化や不安の訴えなどの行動が観察された。

②Bさん（18歳、女性）：脳腫瘍手術後の後遺症により軽度左片麻痺、左下方1/4の視野欠損、睡眠過多、記憶障害が認められる。障害は認識しているが、対処行動を取るまでには至らない。

長時間作業や休憩時、左手を使用している場合等に疲労を感じる事が多いこと、質問しようとした時や作業途中で手順を忘れてしまった時、またタバコの臭いが長時間続いた場合等にストレスを感じているが、積極的な対応ができず我慢していることが多かった。

③Cさん（23歳、男性）：交通事故による受傷。

記憶や注意の低下、ワーキングメモリーの問題等、前頭葉機能の障害が指摘されている。障害は認識しているが、適切な対処行動を取るまでには至らない。

15分以上の継続作業場面、フィードバックや終了の不明確な作業場面では、逃避的な態度や作業途上での離席等の行動が見られた。また、自分の考えと異なる指示があると、感情的に主張する等の行動も見られた。

(2) トータルパッケージのカリキュラム例

表2 職場適応促進のためのトータルパッケージのカリキュラム（試行事例から）

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
時間	スケジュール	スケジュール	スケジュール	スケジュール	スケジュール	スケジュール	スケジュール
9:45	説明	作業準備	作業準備	作業準備	作業準備	作業準備	作業準備
10:00	個別相談	g 相談	g 相談	g 相談	g 相談	g 相談	g 相談
10:05	個別相談 WCST	* 簡易評価 相談	* O A 作業	* 事務作業	* O A 作業 事務作業	* O A 作業 実務作業	* 実務作業
11:00		* 簡易評価	* O A 作業	* 事務作業	* O A 作業 事務作業	* O A 作業 実務作業	* 実務作業
12:00	メモリーノート			g 相談		g 相談	
13:00	簡易評価 (事務作業、 O A 作業)	* MN訓練	* 事務作業		* O A 作業 事務作業		* 実務作業 事務作業
14:00		* 簡易評価	* 事務作業		* O A 作業 事務作業		* 実務作業 事務作業
15:00		* 簡易評価	* 事務作業		* O A 作業 事務作業		* 実務作業 事務作業
15:45	g 相談	g 相談	g 相談		g 相談		g 相談

※ は、前日に指示済み、gはグループ活動、*はメモリーノート記入事項、を示す

表2にカリキュラムの例を示した。なお、このカリキュラムは、表1の対象者へトータルパッケージを試行した際のカリキュラムである。

このカリキュラムでは、まず1日目に対象者毎に個別相談を行い、個々人の障害状況とストレス体験や疲労感の認識等についての情報を収集した。その後、Wisconsin Card Sorting Test（以下、WCSTという）を実施し、遂行機能障害の有無の可能性や反応改善に効果的な支援方法について評価した。

1日目後半～2日目にかけて、メモリーノート訓練と作業評価課題（簡易版）を行い、基本的な情報整理スキルの獲得と作業におけるエラーの現れ方を把握した。

3日目～7日目には、対象者毎に順次作業課題を用いた訓練を行い、個々の作業で見られたミスや作業の不安定さ、作業能率等の改善を図った。

2日目以後のスケジュールについては、毎日の終わりのミーティングの際に、時間や場所、必要物品、提出物等を提示し、翌日以降の場面の中でこれらの実行状況を把握した。

(3) 結果

イ KWCSTの結果

KWCSTの実施方法に基づきPC版を用いて行った。結果は表3に示した。

1-2回目の実施では、3名とも、カテゴリーの忘却や混乱等により、フィードバック情報からの適切なルールの生成には至らず、合理的な反応を継続できなかった。そこで、3回目に3つ

のカテゴリー名が書かれた「種類カード」を手がかり刺激として提示したところ、3名とも合理的な反応を自発的に行うことができるようになった。

表3 WCSTの実施結果

対象者	1セッション	2セッション	3セッション	補完方法
A	3	3	6	種類カードの提示
B	5	2	6	種類カードの提示
C	1	3	6	種類カードの提示

*表内の結果は、カテゴリー達成数 (CA) を示す

ロ メモリーノート訓練の結果

メモリーノート訓練は、3種類（白・青・桃）4機能（スケジュール・今日のto-do・to-do list・重要事項）からなる様式を用い、参照・構成・記入の3段階の訓練を実施した。結果を表4に示した。

表4 メモリーノート訓練の実施結果

対象者	参照	構成	記入	般化状況
A	9	2	2	記入には積極的であるが参照行動は支援が必要。
B	5	4	2	記入・参照行動ともほぼ安定。
C	18	6	3	携帯の習慣化、記入・参照とも支援が必要。

*結果は達成水準（100%×2block）までの実施block数。

ハ 作業評価課題の結果

作業評価課題は、個々の対象者の簡易版における実施状況等を基に、訓練課題として実施することが適当と判断されたものを選択し実施した。

個々の作業課題の実施結果を、表1に示した。

Aさんは、数値チェック、物品請求書作成、数値入力、ピッキングの各作業について訓練を行った。各作業とも、作業開始時に丁寧な説明や例示、マニュアルの使用を促す等の指導が必要であったが、指導後は自律的な作業遂行が可能となった。また、記憶障害から、数日前に実施した作業名を忘れることは多かったが、手続き記憶は保持されており学習効果は見られた。

Bさんは、数値チェック、物品請求書作成・ピッキングの各作業について訓練を行った。各作業とも学習はスムーズだったが、口頭の指示では理解できず、作業途中での質問が多かったため、質問事項を書きとめ、まとめて質問すること、手順をメモリーノートに記載させ参照を促す指導が必要であった。これらの指導の結果、常にメモリーノートを参照し、自律的に作業を行うよう

になったが、質問が必要な場面でも独力での対応を図りミスや作業能率の低下に繋がる様子も見られた。

Cさんは、数値チェック、数値入力、ピッキングの各作業について訓練を行った。どの作業においても、作業時間が15分程度を超えると逸脱行動が見られたりや集中力を欠く様子が観察されたが、数値入力作業において、単位作業時間を自己申告する、数字の読み上げ入力・読み上げ確認を徹底する等により、徐々に作業時間の延長を図るよう支援した。その結果、判断等の認知的負荷の低い作業では集中して取り組める作業時間の延長は図られたが、ピッキング等認知的負荷の高い作業では作業遂行は可能なものの、安定した作業時間の延長には至らなかった。

3. トータルパッケージ導入の効果

(1) 職場適応とトータルパッケージ

トータルパッケージを個々人の職場適応の視点から見ると、個々人が安定的に作業能力を発揮するために様々な方向からアプローチしている。

職場適応を促進するためにトータルパッケージが果たしている役割を、図2のように整理した。

職場内での個人の行動を、「入力」(ex.作業機会、作業環境、作業対象物等) → 「作業・職務実施」(ex.作業や職務の遂行) → 「出力」(ex.作業成果物、作業時間、作業能率、疲労等)といった一連の流れとして考える。

まず、「入力」の部分を見ると、作業評価課題は、単に作業の機会を個人に提供するだけでなく、作業の量や難易度を段階的に設定したり、幾つかの作業を組み合わせ複雑さの異なる職務を構成し提示することができるように造られている。

また、「作業・職務実施」の部分では、WCSTをはじめとした各種検査の結果やMSFAS等により把握した障害状況に合わせ、作業の安定した遂行を促す指導や補完手段等の支援策を講じることができる。

さらに、「出力」の部分では、作業や職務の結果を記録し、作業のエラー分析等により、障害や疲労・ストレスの影響等を把握している。また、これらの結果を基に作業・職務の調整や個人の自立度(セルフマネジメントレベル)に合わせた支援を検討し、メモリーノート等の活用によって新たな作業・職務機会におけるスムーズな作業・職務の遂行の促進を図っている。

このようにトータルパッケージでは、個人が作業や職務を上手く遂行する際に影響を与える幾つかの要因に対し、具体的にアプローチする手段を提供するものと考えられる。

(2) トータルパッケージの効果

トータルパッケージの導入によって、対象者は個々に違いはあるものの、次のような内容について目標として明確化し、また学習成果を得ることができたと考えられる。

- ①疲労度・ストレス場面でのセルフモニタリングの必要性
- ②スケジュール管理、行動様式(作業手順や生活習慣等)記録の重要性
- ③作業上の障害の現れ方(作業毎のエラー内容、作業時の疲労・ストレスの現れ等)

④作業上の障害に対する対処方法（種類カード、指示の受け方、メモリーノートの活用等）

これらの学習や気づきは、今後、対象者が職業生活を営む上で必要な、障害の受容や理解を促進するきっかけとなるのではないだろうか。

職場適応とトータルパッケージ

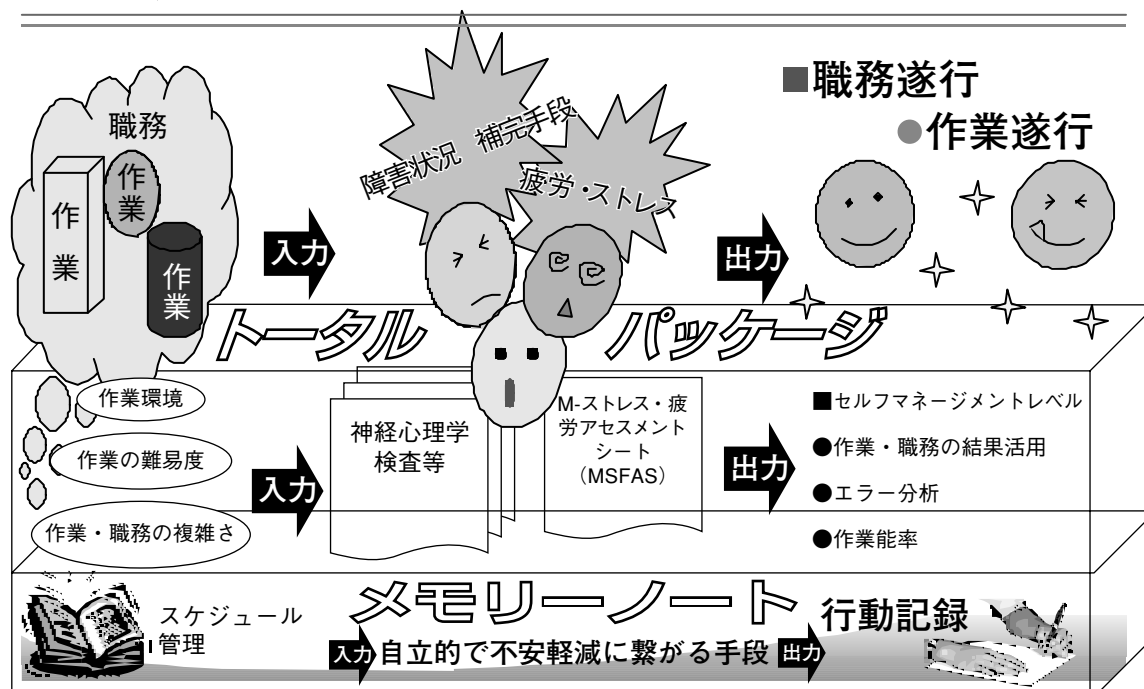


図2 職場適応におけるトータルパッケージの役割

4. 今後の課題および展望

前項では、トータルパッケージの効果について幾つかの項目を挙げた。試行の対象者においては、これらの項目について、改善の兆しを見せたが、トータルパッケージを完成するためには、次のような幾つかの課題が残されている。

- ① 個々の疲労やストレスを示す、疲労・ストレス指標の特定の手続きの作成
- ② 疲労やストレスに応じた休憩取得等の段階的なセルフマネジメント訓練の開発
- ③ 遂行機能障害の補完手段（計画作成支援ツール）としてのメモリーノート訓練の開発

本研究では、これらの課題に対応するため評価・分析方法や指導・支援方法についても引き続き開発をすすめており、今後、これらについてもトータルパッケージの新たな内容として取り入れていく方向で検討している。

トータルパッケージの導入は、個人の属性（障害状況、疲労・ストレス等による変化）と作業や職務の属性（作業の難易度、職務の複雑さ）、その関係性の中で現れる作業・職務の遂行状況を総合的に評価し、適切な指導・支援（メモリーノート、セルフマネジメント訓練、作業指導等）を構築するため

の総合的支援であると考えている。このような支援には、ある程度の期間と計画的な実施が必要とされ
ると考えられる。今後、さらに試行を重ね、トータルパッケージの機能と効果について明らかにしてい
きたい。

文 献

- Anthony,W.A. & Jansen,M.A. : Predicting the vocational capacity of the chronically mentally ill :
Research and Policy implications. American Psychologist, 39, 537-544 (1984)
- 青野香代子・勿田文記・吉光清：記憶障害を有する高次脳機能障害へのメモリーノート訓練, 第8回職
業リハビリテーション研究発表会 (2000)
- 青野香代子・勿田文記・吉光清・那須利久・鷹居勝美：障害者職業総合センターにおける高次脳機能障
害者に対する職場復帰支援プログラム (2), 第29回職業リハビリテーション学会発表論文集 (2001)
- 青野香代子・勿田文記・吉光清他：高次脳機能障害者等に対する作業評価課題の試行状況について (1)
ー健常者への実施ー, 第9回職リハ研究発表会発表論文集 (2001)
- 青野香代子・勿田文記・齋藤友美枝・戸田ルナ・八木繁美・望月葉子・谷素子：作業評価課題における
障害別エラー分析 (2) ー事務作業課題ー, 第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 123-
124 (2002)
- コーエン, R. C. ケプラー, L. U. ゴードン：「ストレス測定法」, 川島書店 (1999)
- 古屋健：調査結果ー職場・仕事の状況とストレス反応, メンタルヘルス対策に関する研究, 調査研究報告
書, No.144, 139-159 (2001)
- D.H.Jonassen, W.H.Hannum,M.Tessmer. : Handbook of Task Analysys Procedures, PRAEGER (1989)
- Gary Bryson, et al. : The Work Behavior Inventory · A Scale for the assessment of work behavior for
people with severe mental illness, Psychiatric Rehabilitation Journal, Vol.20 No.4, 47-55 (spring 1997)
- Gary Bryson, et al. : The Work Behavior Inventory · Prediction of future work success of people with
schizophrenia, Psychiatric Rehabilitation Journal, Vol.23 No. 2 , 113-117 (fall 1999)
- 後藤祐之：高次脳機能障害を有する者に対する職業講習の指導技法に関する研究, 日本障害者雇用促進
協会, 調査研究報告書No.32 (1998)
- 勿田文記・石原一人：職場定着サポートにおける応用行動分析的アプローチ (2) ー職場定着サポートに
おける機能分析と専門家の役割ー, 第7回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 162-165
(1999)
- 勿田文記・青野香代子・吉光清：高次脳機能障害への職業リハビリテーションにおけるメモリーノート
訓練, 日本行動分析学会第18回年次大会発表論文集 (2000)
- 勿田文記・青野香代子・吉光清：高次脳機能障害に対する作業評価課題の作成ー事務的作業とOA機器
を利用した作業, 第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 122-125 (2000)

- 芻田文記・青野香代子・吉光清・中本敬子：高次脳機能障害に対する職業リハビリテーションにおける Wisconsin Card Sorting Testの利用 (1), 第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集 (2000)
- 芻田文記・石原一人：職場定着サポートにおける応用行動分析的アプローチ (2), 第7回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 162-165 (2000)
- 芻田文記・神村伸一・石黒秀仁：職業準備訓練における構造化に対する試み (4), 第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 192-195 (2000)
- 芻田文記・青野香代子・吉光清・那須利久・鷹居勝美：障害者職業総合センターにおける高次脳機能障害者に対する職場復帰支援プログラム (1), 第29回職業リハビリテーション学会発表論文集 (2001)
- 芻田文記・青野香代子・吉光清・鷹居勝美・生川奈津美・那須利久・土井徳子：高次脳機能障害者に対する職場復帰支援プログラムの取り組みについて～課題分析に基づく対象者への支援の実際～, 第9回職業リハビリテーション研究発表会 (2001)
- 芻田文記・青野香代子・吉光清：脳外傷者への職業リハビリテーションにおける作業評価課題の開発 (1), 日本行動分析学会第19回発表論文集 (2001)
- 芻田文記・青野香代子：「脳外傷者への職業リハビリテーションにおける作業評価課題の開発 (2)」, 日本行動分析学会第19回年次大会発表論文集 (2001.8)
- 芻田文記・青野香代子・吉光清・岩崎容子：高次脳機能障害者に対する作業評価課題の試行状況について (2) - 高次脳機能障害者への実施 -, 第9回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 61-64 (2001)
- 芻田文記・青野香代子・吉光清：「記憶障害への職業リハビリテーションにおけるメモリーノートの活用」, 第25回日本失語症学会総会プログラム・講演抄録 (2001.12)
- 芻田文記・青野香代子・齋藤友美枝・戸田ルナ・八木繁美・望月葉子・谷素子：作業評価課題における障害別エラー分析 (1) - O A 作業課題 -, 第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 123-124 (2002)
- 芻田文記・青野香代子・齋藤友美枝・戸田ルナ・八木繁美・望月葉子・谷素子：障害者の職場適応促進のためのトータルパッケージ, 第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 292-295 (2002)
- 肥後祥治：発達障害のある人たちの自傷行動への対処法選択, 日本行動療法学会第25回大会発表論文集 (1999)
- 平澤紀子・藤原義博：養護学校高等部生徒の他生徒への攻撃行動に対する機能的アセスメントに基づく指導：Positive Behavioral SupportにおけるContextual Fitの観点から, 行動分析学研究, vol.15 (1), 4-24 (2000)
- Holmes, T.A. & Rahe, R.H. : The Social Readjustment Rating Scale. Journal of Psychosomatic Research, 11, 213-218 (1967)

- 池淵恵美：評価することの現代的意義, 精神障害とリハビリテーション, vol 5 (2), 85-91, (2001)
- 石原一人・芻田文記：職場定着サポートにおける応用行動分析的アプローチ (1), 第7回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 158-161 (1999)
- 岩崎容子・芻田文記・青野香代子・吉光清：高次脳機能障害者に対する作業評価課題の作成 (その2) -事務的作業と実務作業-, 第9回職リハ研究発表会発表論文集, 225-228 (2001)
- 鹿島晴雄・加藤元一郎・半田貴士：慢性分裂病の前頭葉機能に関する神経心理学的検討 -Wisconsin Card Sorting Test 新修正法による結果-, 臨床精神医学, 14 (10), 1479-1489 (1985)
- 鹿島晴雄・加藤元一郎：前頭葉機能検査 -障害の形式と評価法-, 神経進歩, Vol.37, No. 1, 93-109 (1993)
- 鹿島晴雄・加藤元一郎：Wisconsin Card Sorting Test (Keio Version) (KW CST), 脳と精神の医学, Vol. 6, No. 2, 209-216 (1995)
- 鹿島晴雄：前頭葉症状と神経心理学的評価 -検査法を中心に-, 脳と精神の医学, Vol. 6, No. 2, 145-154 (1995)
- 鹿島晴雄・加藤元一郎・田淵肇：認知と行動の神経機構 -IX前頭葉機能-, 臨床精神医学講座21「脳と行動」, 185-201 (1999)
- 加藤元一郎：前頭葉損傷における概念の形成と変換について -新修正Wisconsin Card Sorting Testを用いた検討-, 慶應医学65 (6), 861-885 (1988)
- 小杉正太郎：ストレス緩衝要因の研究動向, 現在のエスプリ別冊, ストレス研究の基礎と臨床, 163-172, 至文堂 (1999)
- 小杉正太郎編著：ストレス心理学 個人差のプロセスとコーピング, 川島書店 (2002)
- 児玉昌久：ストレスマネジメント その概念とOrientation, ヒューマンサイエンス, 1, 82-88 (1988)
- Latack, J.C. & Havlovic, S.J. : Coping with job stress: A conceptual evaluation framework for coping measures. Journal of Organizational Behavior, 13, 479-508 (1992)
- ラザラス, R.S. ・ フォルクマン, S : 「ストレスの心理学 - 認知的評価と対処の研究」, 実務教育出版 (1991)
- Lezak MD : The problem of assessing executive functions, International Journal of Psychology 17 : 281-297 (1982)
- Liberman, R, P 編 (安西信雄・池淵恵美日本語版総監修) : 自立生活技能 (SILS) プログラム, 丸善 (1994)
- 三宅晶・齋藤智：作動記憶研究の現状と展開, 心理学研究, Vol.72 (4), 336-350 (2001)
- 長畑正道・小林重雄・野口幸弘・園山繁樹編著：「行動障害の理解と援助」, 100-121, コレール社 (2000)
- 名古屋市総合リハビリテーションセンター：頭部外傷後の高次脳機能障害者の実態報告書 (2000)
- 中本敬子・芻田文記・青野香代子・吉光清：高次脳機能障害に対する職業リハビリテーションにおける

- Wisconsin Card Sorting Testの利用(2), 第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集(2000)
- 夏目誠: ストレス評価・測定の研究「ストレス研究の基礎と臨床」現代のエスプリ別冊, 151-162, 至文堂(1999)
- 日本労働研究機構: メンタルヘルス対策に関する研究, 調査研究報告書, No.144(2001)
- 布谷芳久・岡島康友・椿原彰夫・本田哲三・千野直一・鹿島晴雄: アラーム付きタイマーを用いたメモリーノート導入訓練—記憶障害者に対するリハビリテーションのための一工夫, 総合リハビリテーション, 21巻7号, 597-601(1993)
- 岡部康成・谷素子・石川球子・小澤昭彦・吉富綾子・池田勲: 精神障害者の職業ストレスについて—職業ストレス検査(OSI)の結果から—, 第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 106-109(2000)
- Osipow, S.H. & Spokane A.R.: Manual for measures of occupational stress, strain, and coping (Form E-2). Columbus, OH: Marathon Consulting and Press(1983)
- Osipow, S.H. & Spokane, A.R.: Occupational stress inventory: Manual (Research version). Obessa, FL: Psychological Assessment Resources, Inc.(1987)
- 労働省: 平成10年度障害者雇用実態調査結果報告書, 平成10年11月調査(平成12年3月)
- 労務事情「企業の私傷病保障制度に関する調査」, No.941, 18-34(1999年5月)
- 齋藤友美枝・八木繁美・青野香代子・戸田ルナ・芻田文記・望月葉子・谷素子: 高次脳機能障害者に対する「M-ストレス・疲労アセスメントシート」の試行, 第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 117-118(2002)
- 齋藤友美枝・芻田文記・青野香代子・戸田ルナ・八木繁美・岩崎容子・望月葉子・谷素子: 作業評価課題における簡易版の作成と試行, 第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 296-297(2002)
- 坂野雄二・大島典子・富家直明・嶋田洋徳・秋山香澄・松本聡子: 最近のストレスマネジメント研究の動向, 早稲田大学人間科学研究, vol. 8(1), 121-141(1995)
- 島津明人・布施美和子・種市康太郎・大橋靖史・小杉正太郎: 従業員を対象としたストレス調査票作成の試み(1) ストレッサー尺度・ストレス反応尺度の作成, 産業ストレス研究, Vol. 4(1), 41-52(1997)
- 島津明人・小杉正太郎: 職場のメンタルヘルス活動における行動科学の適用, 行動科学, Vol.40(1), 39-44(2001)
- 障害者職業総合センター職業センター「高次脳機能障害者のための効果的な支援方法(構想)～医学的リハから職場復帰への円滑な支援を中心として～」, 障害者職業総合センター実践報告書No. 4(1999)
- 障害者職業総合センター職業センター「高次脳機能障害者における職場復帰支援～職場復帰支援プログラムにおける2年間の実践～」, 障害者職業総合センター職業センター実践報告書No. 9(2001)

- 鷹居勝美・生川奈津美・那須利久・土井徳子・芻田文記・青野香代子・吉光清：高次脳機能障害者に対する職場復帰支援プログラムの取り組みについて～事業主支援の実際～，第9回職業リハビリテーション研究発表会（2001）
- 田中宏二・渡辺三枝子：OSI職業ストレス検査，社団法人雇用問題研究会（1998）
- 谷素子・石川球子・小澤昭彦・吉富綾子・池田勲：精神障害者の就労評価項目について(1)，第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，218-221（2000）
- 戸田ルナ・芻田文記・青野香代子・齋藤友美枝・八木繁美・岩崎容子・伊藤菜穂子・望月葉子・谷素子：作業評価課題の開発と試行－実務作業とOA作業における検索修正課題－，第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，119-122（2002）
- 戸田ルナ・芻田文記・青野香代子・齋藤友美枝・八木繁美・望月葉子・谷素子・佐々木よしえ・岡田雅人：M-メモリーノートの改訂と作業場面・日常場面での応用．第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，284-287（2002）
- 八木繁美・齋藤友美枝・谷素子・伊藤菜穂子・池田勲：精神障害者の対処行動にかかる評価法の開発について－ストレス場面での周囲とのかかわりの視点から－，第9回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，223-224（2000）
- 八木繁美・齋藤友美枝・芻田文記・戸田ルナ・青野香代子・望月葉子・谷素子：精神障害者に対する「M-ストレス・疲労アセスメントシート」の活用方法，第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，113-116（2002）
- 八木繁美・齋藤友美枝・芻田文記・戸田ルナ・青野香代子・望月葉子・谷素子：M-ストレス・疲労アセスメントシートの作成，第10回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，288-291（2002）
- 吉光清・木島伸彦・松為信雄：精神障害者の就労継続にかかわる事業所の条件－「社会適応訓練事業」協力事業への調査から－，障害者職業総合センター研究紀要No8，1-26（1999）
- 吉光清：精神障害者の職業評価に関する問題整理，第4回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，188-191（1996）
- 吉光清：特集精神障害リハビリテーションにおける評価の理論と技法評価の領域と評価技法6.職業能力の評価精神障害とリハビリテーション，vol5(2)，119-121（2001）
- 吉富綾子・谷素子・石川球子・小澤昭彦・池田勲：精神障害者の就労評価項目について(2)，第8回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，222-225（2000）
- (財)全国精神障害者家族会連合会：精神障害者・家族の生活と福祉ニーズ'93(Ⅱ)－全国地域生活本人調査編－（1994年3月）